

## 2013年12月 ベンチャー起業論「ビジネスプランコンテスト」 学部長挨拶

今年も12月になり、このビジネスプランコンテストを迎えました。このイベントが来ると年の瀬を感じます。1年間ベンチャー起業論を支えてくださいました企業の方々、講師の方々に感謝します。

このベンチャー起業論のビジネスプランコンテストは、今年で14年目になります。14年前と言いますと、本日プレゼンテーションを行う学生が小学1年生か2年生だったわけで、歴史を感じます。当時は、阿比留さんの髪の毛はあんなに真っ白ではなかったと記憶しています。

さて、この14年の歴史の中でビジネスプランコンテストには変わったことと、変わらなかったことがあります。

まず変わったことですが、発表の内容が変わりました。始まったころは、文字通りのビジネスプランの発表会でした。このようなビジネスを考えました。こういうビジネスはこれまでになく、こういう人たちがお客さんになってくれるはずです。そのような人は多いのできつうまくいきます・・・というものでした。しかし、時が立つに連れ、次第にそのようなアイデア勝負より、ベンチャー企業論のプロジェクトとしてどれだけ本気でやったかの勝負になってきました。昨年私は、今ではソリューションプランコンテストと言った方が良いかもしれないと申し上げましたが、あるいは、もっと大雑把に、プロジェクト活動のコンテストと言ったほうが良いかもしれません。要するに、名前と中身が違うのでありますが、寛大なる皆様は許して下さるものと期待します。

次に変わらなかったことですが、このイベントに至るまでに、学生が主体的に問題に取り組み、自ら考え、真剣に準備するという点、これは変わっていません。学生は授業以外の時間を使って、知恵をしばり、議論し、悩み、足を使い、汗をながし、悪戦苦闘して今日のこのイベントを迎えます。その結果を皆さんに見ていただくという点は1回目からずっと引き継がれていることです。

そして、そのような経験を通じて、学生が成長すること、本気で真剣に取り組んだ学生ほど大きく成長するという点、これが14年間変わらない事実です。

さらに申し添えれば、そのようにして主体的に行動できる学生を育てようとする阿比留先生の情熱と愛情もまたこの14年間変わっていません。

今回は、8つのプロジェクトが発表します。会場の皆様に最終結果しかお見せできないのが残念です。もしそれが可能であれば、4月にプロジェクトを立ち上げた後、学生が活動し、苦悩し、先生に叱られ、何度もやり直して、今日このステージに立つ、そこまでのドキュメンタリーがあれば、それをご覧に入りたいです。しかし、そのようなドキュメンタリーはないので、結果から推察していただくよりありません。

ただし、審査にあたっては、最終結果を厳しく評価してください。どんなに途中で苦しい状況を乗り越えてきたとしても、結果は結果としてきちんと評価していただかなくては

なりません。きちんと厳しく評価してもらうことをきっと彼らも望んでいます。未熟であればはっきりと「まだまだ未熟だ」と、あるいは「もっとこういう勉強をなさい」と言っていたくことが、来年につながるからです。

最後に、今年1年間、ベンチャー起業論とその関連科目を支えてくださった方々、講師陣の皆様、企業の皆様、授業運営やプロジェクト活動で頑張ってくれた学生諸君、すべての皆様に感謝し、私からの挨拶といたします。